

■教育目的

我々は多様性に富んだ食生活を享受し、飽食あるいは個食の時代を謳歌している。その反面、細菌性食中毒等は一方向に減少する気配が見られず、また、天然あるいは人工的な有害物質によって食品が様々な形で汚染され、急性あるいは慢性中毒の危険にさらされている。健康志向が高まる中、食の体系も加工食品を中心に、有機食品、健康食品、特定保健用食品などやバイオテクノロジーを利用した遺伝子組換え食品の登場へと変貌を遂げている。このような現状をふまえ、食の安全確保について、法的規制とともに修得する。

【卒業認定の方針：YD-①、YD-②】

■学習到達目標

1. 食品衛生法並びに食品添加物及び農薬等の理解
2. 食品汚染物質の毒性と汚染源の把握
3. 細菌性・ウイルス性・化学性・自然毒による食中毒の理解
4. 栄養と栄養素の理解
5. 食品成分の変質と測定法の原理の把握
6. 保健機能食品及び遺伝子組換え食品等の理解

■準備学習（予習・復習）

予習：教科書の講義内容にかかわるところをあらかじめ読んで、講義内容を確認しておく（20分以上）。

復習：教科書及び配付プリントを読み直し、内容を理解する（20分以上）。

■授業内容

食品の安全性確保にかかわる法整備、食品添加物、農薬、有害化学物質に関する知見、健康影響が懸念される食中毒原因物質の把握、食品表示に関する規定などについて、具体的な事例を参考に解説する。

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	食品衛生の概論	食品衛生の動き及び食の安全確保とその評価	D1(3)-②-7 D2(1)-②-1
2	安全性試験	突然変異原性、催奇形性などの遺伝毒性と発癌機構	D2(1)-②-2 D2(1)-③-2,3
3	食品添加物総論	食品衛生法及び添加物公定書解説	D1(3)-②-5 D1(3)-②-7
4	食品添加物各論	合成添加物と天然添加物	D1(3)-②-5
5	残留農薬	農薬の安全使用と法規制	D1(3)-②-7 D1(3)-③-3 D2(1)-①-6 D2(1)-②-3,4,5
6	食品汚染物質	有害性重金属と環境汚染を介した健康影響	D2(1)-①-1,3,6 D2(2)-②-1
7	食中毒（Ⅰ）	食中毒の種類と細菌性食中毒（感染型及び毒素型）及びウイルス性食中毒	D1(2)-②-2 D1(3)-③-1
8	食中毒（Ⅱ）	動物性、植物性自然毒及びマイコトキシン	D1(3)-③-2,3 D2(1)-①-2
9	食中毒（Ⅲ）	有害物質などによる化学性食中毒	D1(3)-②-4 D2(1)-①-3 D2(1)-②-5
10	異物及び寄生虫	事例に見る食品中の異物、ダニ及びアニサキス等の寄生虫	D1(3)-③-3
11	栄養摂取と微量元素	三大栄養素と必須微量元素、ビタミンの摂取（過剰症と欠乏症）	D1(3)-①-1,3,4,7
12	食物アレルギー	食物アレルギーと表示	D1(3)-②-1,7
13	食品成分の変質（Ⅰ）	微生物による食品の変質（腐敗）	D1(3)-②-1
14	食品成分の変質（Ⅱ）	油脂の変敗をはじめとする食品の変質	D1(3)-②-2,3

No.	項目	授業内容	SBO コード
15	健康食品と新開発食品	特定保健用食品、栄養機能食品、遺伝子組換え食品と表示	D1(3)-②-6

■ 授業分担者

高野 伊知郎

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

講義や定期試験に関する質問等を個別に受け付け、解説・説明をする。

期末試験（90％）および出席状況・授業態度（10％）で総合評価を行う。

■ 教科書

『薬学領域の食品衛生化学 第2版』長澤 一樹・川崎 直人 編（廣川書店）

■ 参考書

『衛生試験法・注解 2015』日本薬学会 編（金原出版）

『必携・衛生試験法 第2版』日本薬学会 編（金原出版）

『第5版 衛生薬学－健康と環境－』永沼 章・姫野 誠一郎・平塚 明 編（丸善）

■ その他

適宜講義資料を配付する。